

---

Bitter -40-

ま ゆ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Bitter - 40 -

### 【Nコード】

N6252D

### 【作者名】

まゆ

### 【あらすじ】

タイムリミットは40分。40分以内にコイツに「チョコあげる」の一言を言わなければいけない。そして、2人であるゲームをすることになった。勝てばもらってくれる。負ければ違う誰かに告白・・・

W h i t e   より   濃く

M i l k   より   色深く

B i t t e r                   4 0

「んでさあ、あいつおかんだけ  
やねんでえ（笑）かわいそうやでなあ^^」

季節は冬

正月も終わり2月に入ったかと思うと  
1週間が経ち、ヴぁれんたいんでえい                   （バレンタイン）が  
今年も近づいてきた。

2月13日   4限目の英語の授業  
隣のコイツとの話題は   もちろん   ソレ。  
「チョコあげる」の一言を切り出さなければ  
今年も   友ちよこだけで   過ぎ去る。

タイムリミットは40分                   . . .

『なんなん、あんたもおかんだけやないの?』

ちよつと皮肉ったらしく言つてみたものの  
ふつとあたしを見下したような笑い方をして  
コイツはこう言い放った。

「オレは、幅跳びのコに もらえるもん」

はあああああ?!?!?!?!?

うせやんうせやん うせやーーーーん!!!!!!  
誰じゃ そいつは!

つて。 コイツ 安田光汰 は

あたしのものじゃないやんか (・A・)

あたし 常盤 真奈 は

このノリで行くと こいつが 好き。

いや、ノリとか空気とかじゃないけどね。

普通のどこにでもいる女の子の『恋』ですよ?

「ええやろお」

『ええなあ、ええなあ』

嬉しそうに笑う顔もまた、かわいい。

「しかも 本命っ」

あー、もうまじで その幅跳びの「  
いらん 涙  
オネガイやから 消えてほしい。。

『んじゃあ、おかんと幅跳びの「だけ、と。』

「んー、まあしいていえばそうやな」

『他の「は?』

「知らーんwでも当日は靴箱にぎっしり・・・」

『死ねばええのに』

「「Kouta Stand up・Read book!」」

「うえっ?! あ!これやね!」」 Miki is playing  
tennis・but Miki play basket b  
all, too」.

パチパチパチパチ

「「Oh! Very good! thank you」」

「You are Welcome んふふふ(笑)」

ヤバイ・・・

あと25分。

「お前は？」

『ふえ？』

「お前は誰かにあげへんの？」

『桜ちゃんとー、実帆とー、紗奈ちゃん先輩とー、・・・』

「全部 女やんけ」

ぷつ と笑いながらあたしを見る。

「男 は？」

『ペットの 太郎』

「あほか。人間じゃ。」

『おとん』

「だーもー！お前は通じへんなあ！」

『だってどーせ あたしのなんか誰もいらんやろしー。』

「寂しいやつやなあ。」

『まあねえ、ひねくれたコやからしゃーないわあ（笑）』

「よっしゃ。わかった。今からゲームしようや。

オレが負けたら お前のチヨコもろたるわ。

オレが勝ったら 友田<sup>トモタ</sup>がすきって友達に言え。」

友田は、クラスの中でも浮いてるコ。ましてや、カツコよくもなけれ  
ば

おもしろくもない。勉強大好き 学校嫌い みたいな。  
すっごい苦手なコ。

だって、勉強大ッ嫌い 学校大好きな あたしにとって  
絶対 無理。

でも、チヨコ受け取ってくれるねんで？

よっしゃ。やったるやないかあああ！

『ええよ。』

「よっしゃ。そしたらお前の前のヤツに消しゴムのカスを投げる。気づかれたら 負け。」

『ん。』

よっしゃ やるでえ の勢いで光汰が投げた。

そのコの首筋に当たった。

気づくか

気づかないか!!!!!!!!!!



『・・・何してんねん』

やたあああああああ（、、！）

『なんや、後ろからカス飛んできたんやけど  
お前ら ちゃうんけ。』

「あーごめーんっ オレの手が無意識につ ！」

『無意識につ ！じゃねえよ！絶対先生に言ったる！  
先生に言ったるー 先生に言ったるー 』

「桜井くん、許したってくれへん？」

『言ったるー 言ったるー 』

「「Sakurai!! When do you read?」」

『s o r r y .

・ ・ ・  
』

桜井は、教科書を読み始めた。

「負けたしー 涙」

『ふふふふふっw』

「んじゃあ、ありがたく いただきます」

『りょーかい』

翌日 当日

2月14日。

『光汰!』

「あ、」

『これ……』

赤くなりながらそつと  
水色の小さな箱を手渡した。

『すき！！ほんまにすきやねんけど！！』

うえ？なんか口が勝手に  
意味不明なことを言った。

光汰は照れたと思ったたらこちらを向いて  
あの、皮肉ったらしい笑い方で

「誰のコトが？」

と言い返してきた。

『ん／／／』

言わすんか

この恥ずかしがりに

言わすんか・・・

「うそうそ^^ オレもすきやでっ」

それは、それは、

ほろ苦く

White より濃く

Milk より色深く

ほろよい甘さに

N  
E  
X  
T

Y  
O  
U  
?

H  
a  
p  
p  
y

E  
n  
d

溶けてゆく

・  
・  
・  
・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6252d/>

---

Bitter -40-

2010年10月12日07時18分発行